家庭用ミシン
ELU53シリーズ
取扱説明書
本書はなくさない
ように注意し、い
つでも手にとって
みる事ができるよ
うにして下さい。
brother

はじめに

この度は当社の商品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になり、各機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ末永くご愛用ください。
また、お読みになった後は保証書とともにお使いになられる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書およびミシン本体に使われている表示や絵文字は製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を表しています。
	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

特定しない禁止事項

特定しない義務行為

感電の危険があります

分解してはいけません

電源プラグを抜いてください

火災の危険があります

 水に濡らしてはいけません

 特定しない危険通告

この製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

⚠ 警 告	
	必ず一般家庭用電源AC100Vの電源で使用してください。 それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・運転中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注　意	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。 火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
	傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご連絡ください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなど、火の気のある物のそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0℃～40℃です。 ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	野外でのご使用は避けてください。 雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。 また濡れた時はお近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご連絡ください。
	温度や湿度の高いところでのご使用や保管はさけてください。
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用にならないでください。 スプレーへの引火によるやけど・火災の原因となります。

⚠ 注 意

	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。 バランスが崩れて倒れたり、落下などしてケガをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
	ミシン本体の換気口をふさがないでください。 換気口は、必ず壁から30cm以上離してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりをためないようにしてください。 火災の原因となります。
	ミシン本体の上に花びんや水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。 万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお近くの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。 万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約4.5kgあります。 ミシン本体を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。 腰や膝を痛める原因となります。
	ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品をご使用ください。 他の部品を使うと、ケガ・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。 火災・感電およびケガの原因となります。 指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、お近くの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備を行うときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ケガ・感電の原因となります。
	ミシン本体は、必ず取っ手を持って持ち運びをしてください。 他の部分を持つとこわれたり、すべって落としたりして、ケガの原因となります。
	ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針・プーリー・天びんなど動いている部品に手を近づけないでください。 ケガの原因となります。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。 ケガや針折れの原因となります。

⚠ 注 意

	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お近くの販売店または「お客様相談室（ミシン119番)」0120-340-233にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 お客様による修理は危険ですから、絶対にしないでください。
	ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息の恐れがあります。
	お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がケガをしないよう十分ご注意ください。
	針の下に指などを入れないでください。ケガをするおそれがあります。
	上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示にしたがって正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみ等が発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	フットコントローラーの上に物を置かないでください。 ケガ・故障の原因となります。（フットコントローラーは別売です。）
	電源コードは付属のものを使用してください。 感電や発熱による火災の原因となります。

●このミシンは日本国内向け、家庭用です。海外では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になられた場合の保証はいたしかねますのでご了承ください。
●仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
●本書の内容を許可なく無断で複製することは、禁じられておりますのでご了承ください。
●本書の内容を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
●本書の内容について万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

目次

ぬう前の知識

糸の通し方

ぬってみましょう

ミシンを大切に

布地と糸と針の選択早見表

布地の種類	普通地			薄地			厚地			のびる布地		ほつれやすい布地			ステッチ糸の場合	
	ブロード	タフタ	ギャバジン フラノ	ローン	ジョーゼット	ポーラ	デニム	コーデュロイ	ツィード	トリコット	ジャージ					
糸種類	綿糸	合繊糸	絹糸	綿糸	合繊糸	絹糸	綿糸	合繊糸	絹糸	ニット用糸		綿糸	合繊糸	絹糸	合繊糸	絹糸
糸太さ	60〜80		50	60〜80		50	30〜50	50〜60		50〜60		50〜80		50	50〜60	
針太さ	11〜14			9〜11			14〜16			ゴールデン針 11〜14		9〜14			14〜16	

※通常は上糸と下糸は同じ糸をご使用ください。

⚠ 注意

布地と糸と針の組み合わせは、上記の表に従ってください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニム等）を細い針（9〜11番）でぬいますと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。また、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因にもなります。

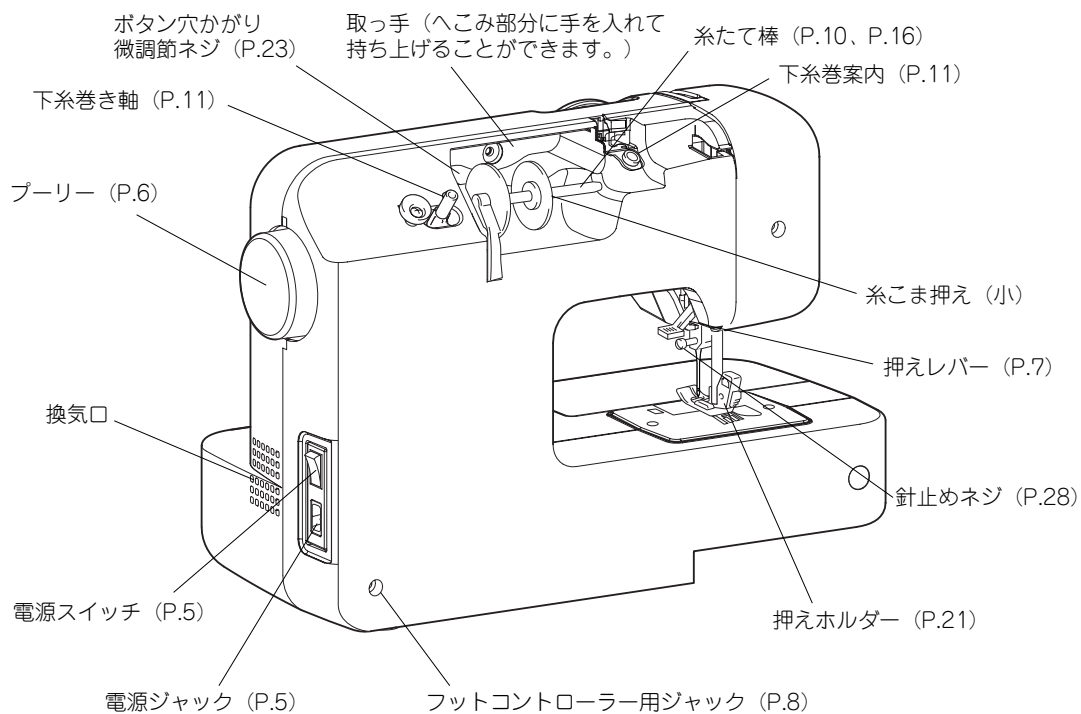
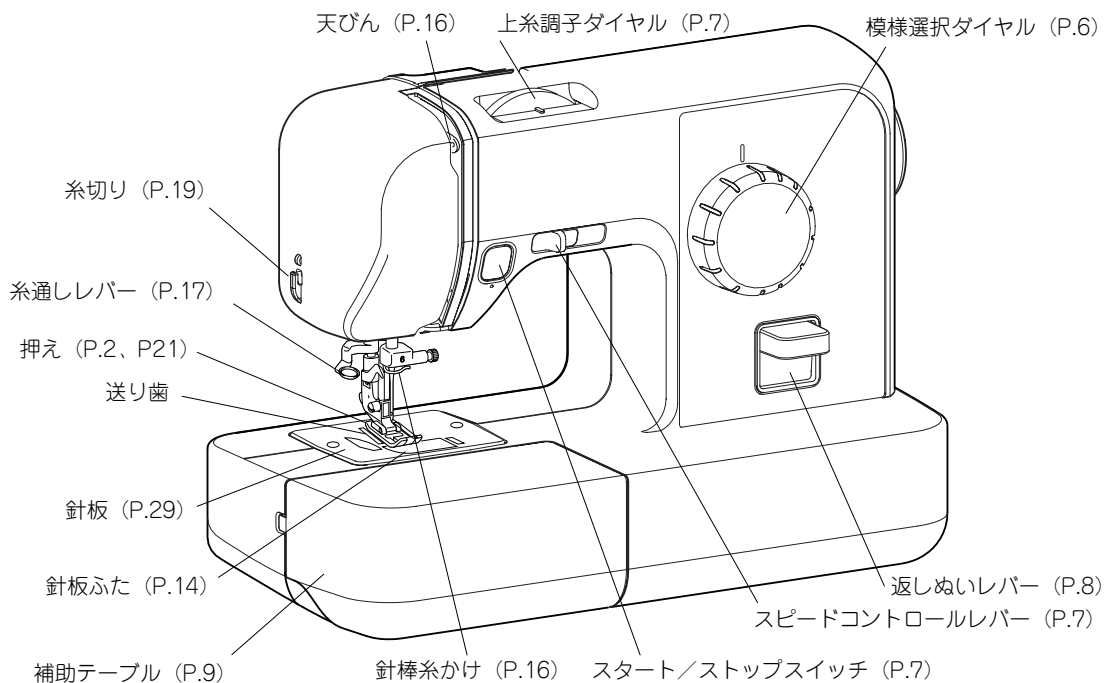
ぬい方早見表

模様の種類	直線			三重ぬい	裁ち目かがり	ジグザグ三重ぬい	ジグザグ		まつりぬい	裁ち目かがり	ボタン穴かがり		
模様番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	b	ac	d
選択模様													
押え記号	J				G	J			L	J	A		
主な用途	薄地・普通地	普通地・厚地	普通地 ファスナー付け	地ぬい（ぬい目をじょうぶにしたいとき）	たちめかがり	飾りぬい	たちめかがり アップリケ パッチワーク その他		まつりぬい	たちめかがり（のびる布地）	ボタン穴かがり		

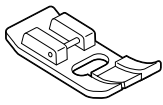
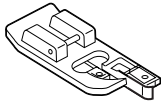
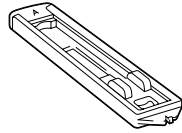
※ <L>押え（別売）は、モデル名：F018Nをご使用ください。
※ ファスナー付けには、<I>押え（別売）：モデル名：F036Nをご使用ください。

⚠ 注意

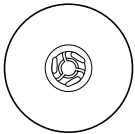
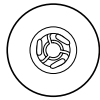
模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

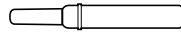
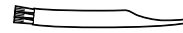
各部の名称

※ 取扱説明書上の図は現物と多少異なることがあります。
※ 糸こまは付属していません。市販の糸こまをお使いください。

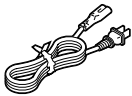
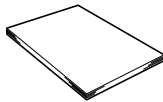
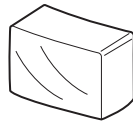
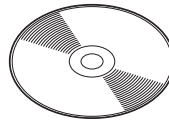
付属品　●付属品は、必ず本機専用付属品をご使用ください。

付属品が全部そろっているかお確かめください。
付属品が足りないときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ジグザグ押え＜J＞

たちめかがり押え＜G＞
（P.24）

ボタン穴かがり押え＜A＞
（P.22）

ミシン針

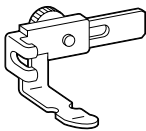
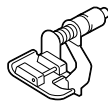
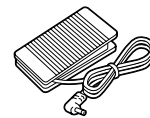
（黄　針…＃11　2本
赤　針…＃14　2本
緑　針…＃16　1本）

糸こま押え（大）

糸こま押え（小）

ボビン（3個）

リッパー
（P.23）

ミシンブラシ
（P.30）

ネジ回し

電源コード（P.5）

取扱説明書

ダストカバー

DVD

早見表

※ ボビンは必ず純正ボビンをご使用ください。（モデル名：B051…5個セット）
※ ジグザグ押え＜J＞、糸こま押え（小）、ボビン1個は購入時にミシンに取り付けてあります。
※ DVD内で説明されるつくり方レシピの型紙等の情報については、ブラザーホームページ（http://www.brother.co.jp）をご覧下さい。

別売り

片押え＜I＞（P.25）
モデル名：F036N

まつりぬい押え＜L＞（P.25）
モデル名：F018N

フットコントローラー（P.8）
モデル名：FC32291
型式：MODEL T

※ フットコントローラーは、仕様により付属されている場合があります。

仕様表

項　目	仕　様
本体寸法	幅38.0×高さ26.0×奥行17.7（cm）
製品質量	4.5kg
ぬい速度	毎分70～500針
使用ミシン針	家庭用ミシン針（HA×1）
定格電圧／消費電力	100V/17W　50/60Hz
ランプ	白色LEDランプ

ぬう前の知識

■ 電源コード

⚠ 警告

必ず一般家庭用電源AC100Vの電源で使用してください。
それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

以下のようなときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電・故障のおそれがあります。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・運転中に停電したとき
・接触不良、断線などで正常に動作しないとき
・雷が鳴りはじめたとき

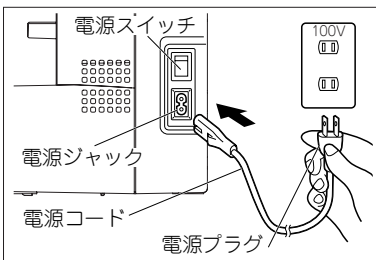
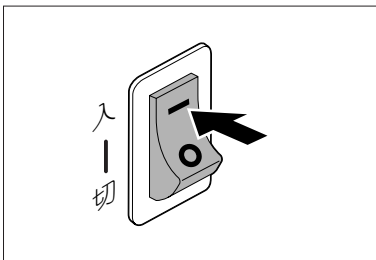
⚠ 注意

延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。
火災・感電の原因となります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、電源スイッチを切って、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

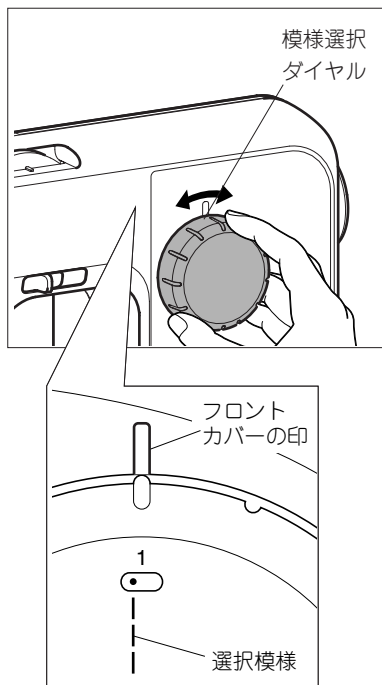
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードまたは電源プラグが破損したときは、ミシンの使用をやめてお近くの販売店または、「お客様相談室（ミシン119番)」0120-340-233にご連絡ください。

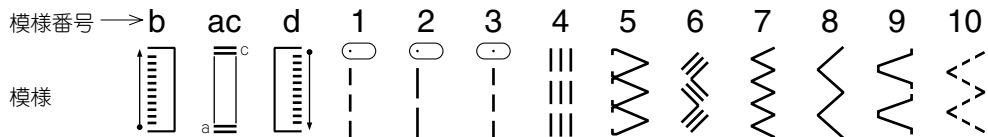
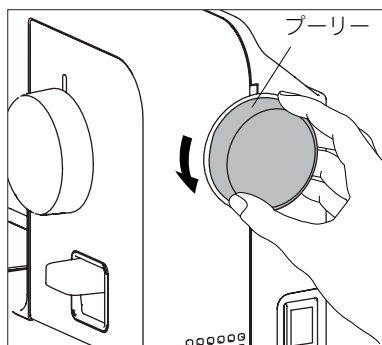
長時間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となります。

1. 電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、付属のコードを本体右側面の電源ジャックに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込んでください。
   ※ 電源コードは付属のものを使用してください。

2. 電源スイッチを「入」の方に押してください。
   電源が入ります。
   ※ 同時にランプが点灯します。

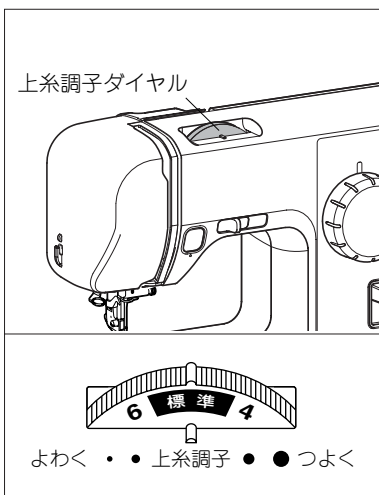
3. 電源を切るときは、電源スイッチを「切」の方に押してください。

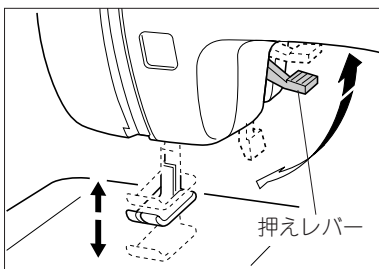
■模様選択ダイヤル

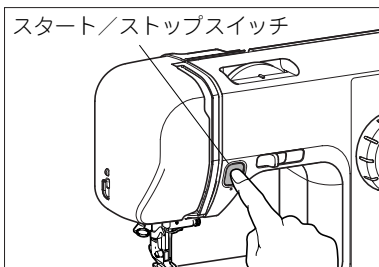
⚠ 注意

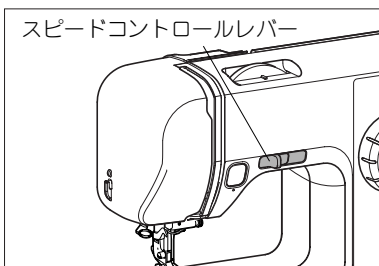
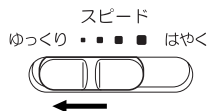
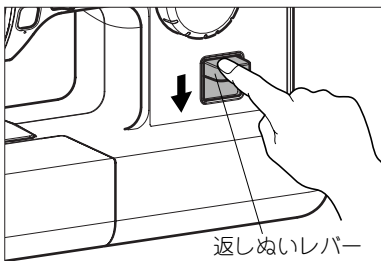
模様選択ダイヤルは、必ず針が布地から上がっていることを確認してから回してください。針が布地にささったまま、およびミシンが動いているときに回すと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

模様選択ダイヤルを回して、使用したい模様をフロントカバーの印に合わせてください。

※ 模様選択ダイヤルを回す時は、押えレバーを上げてください。（P.7参照）

■ プーリー

プーリーを手前に回すと、針が上下します。

■ 上糸調子ダイヤル

上糸調子ダイヤルの **標準** は、普通地(中厚地)をぬう場合の目安です。
布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、実際にお使いになる生地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。(P.21参照)

■ 押えレバー

押えレバーを下げると押えが下がり、布地を押さえます。
押えレバーは2段階に上がり、厚地の重ねぬいなど布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げて入れます。(P.20参照)

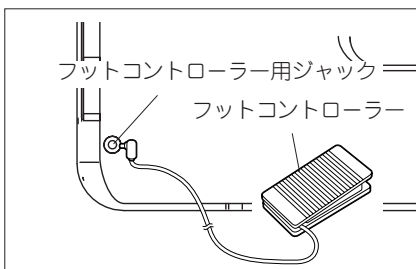
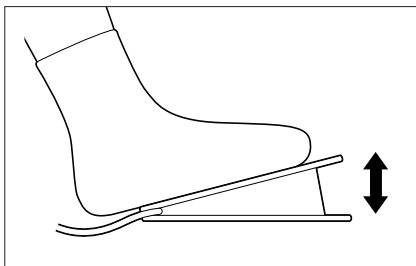
■ スタート／ストップスイッチ

スタート/ストップスイッチを押すとスタートし、もう一度押すとストップします。
※ スイッチを押しつづけている間は、低速でぬいます。
※ ミシンを停止させると、針は上でとまります。

■ スピードコントロールレバー

スピードコントロールレバーをスライドすることによってぬう速さの調節ができます。
※ 初心者の方はミシンになれるまで“ゆっくり”でお使いください。

■ 返しぬいレバー

返しぬいは、ぬい始めやぬい終わりでぬい目を補強する場合に使ってください。
返しぬいレバーを下げている間は低速で返しぬいを行います。
返しぬいレバーから手をはなすと、ミシンがストップします。
※ フットコントローラーでミシンが運転されているときは、そのままの速度で返しぬいを行います。

■ フットコントローラー（別売）の使い方

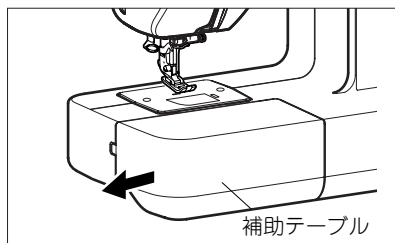
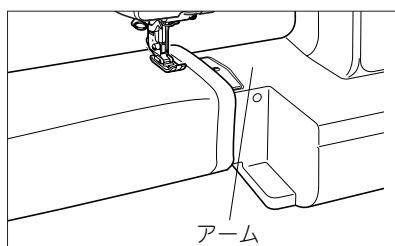
※ フットコントローラーは、コントローラー モデル名: FC32291をご使用ください。

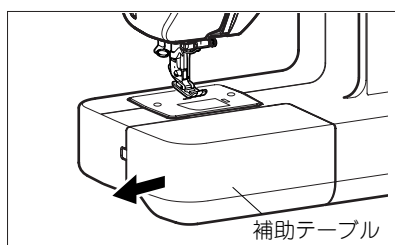
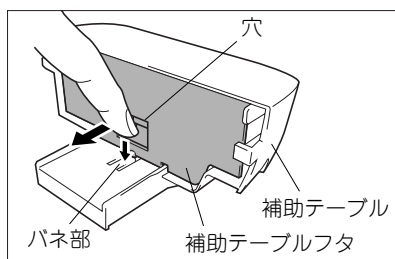
⚠ 注意

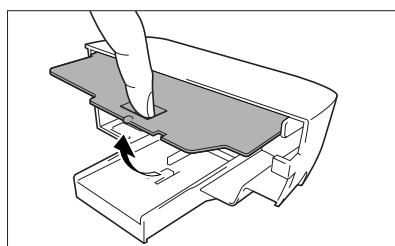
フットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
火災・感電の原因となります。
フットコントローラーの上に物を置かないでください。
ケガ・故障の原因となります。
長期間ご使用にならないときは、フットコントローラーのプラグをジャックから抜いてください。
火災・感電の原因となります。

1. 電源スイッチを切って、フットコントローラーのプラグを本体裏面のジャックに差し込んでください。

2. 電源スイッチを入れ、ぬう準備ができたらフットコントローラーをゆっくりと踏み込んでください。ミシンが動きます。
   ※ 本体のスピードコントロールレバーで設定された速度がフットコントローラーの最高速度になります。

3. 踏み込みをやめるとミシンは止まります。
   ※ フットコントローラー使用時はスタート／ストップスイッチは使用できません。

■ フリーアームにするには（筒ものをぬうとき）

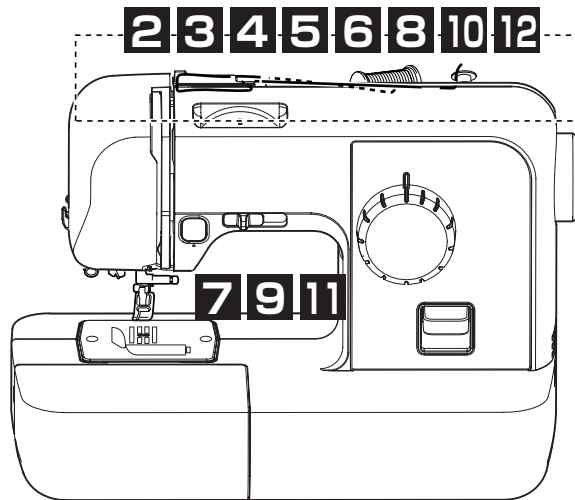
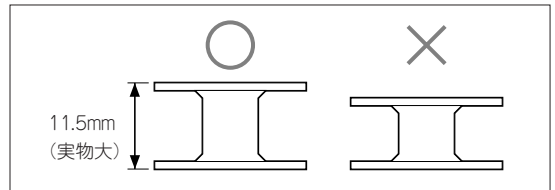
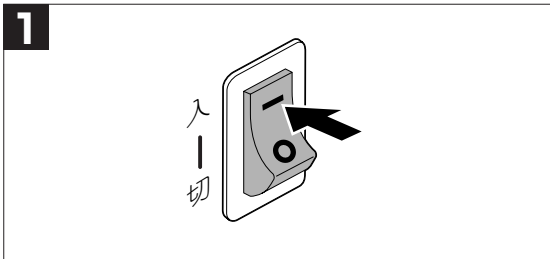
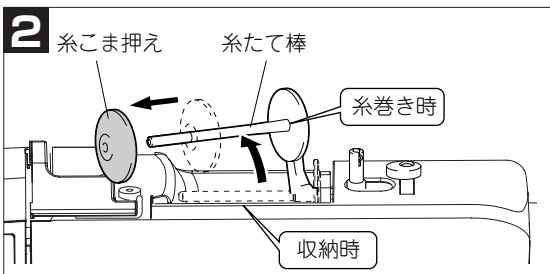
そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1. 補助テーブルを左に引いて取り外すと、フリーアームになります。

2. 布地をアームに通し、布地を回しながらぬっていきます。

■ 補助テーブルの使い方

補助テーブルを左に引いて、ミシン本体から取り外します。

付属品などを収納する場合、補助テーブルフタの穴に指を入れて手前に開いてください。

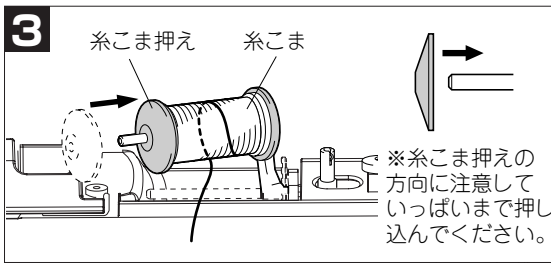
※閉めるときは、補助テーブルフタがロックされるまで閉めてください。

糸の通し方

■ ボビンの下糸巻き

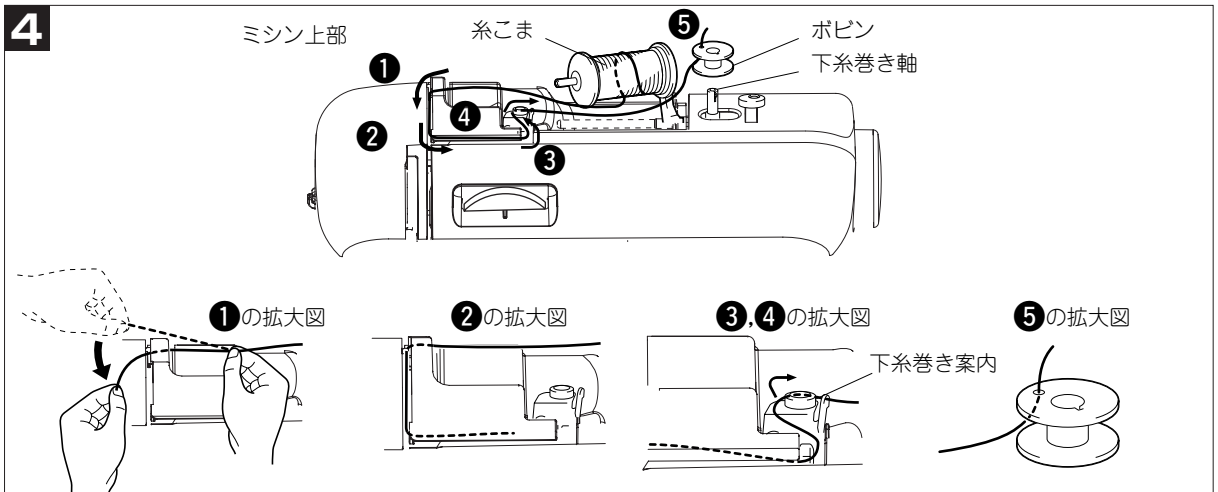
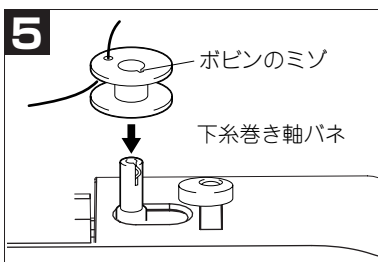
⚠ 注意

必ず純正ボビン（モデル名：B051）をご使用ください。
その他のボビンを使用すると、ケガや故障の原因となります。

1 電源スイッチを入れます。

2 糸たて棒を後側に倒して、糸こま押えを外します。

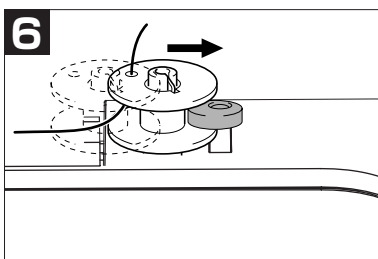
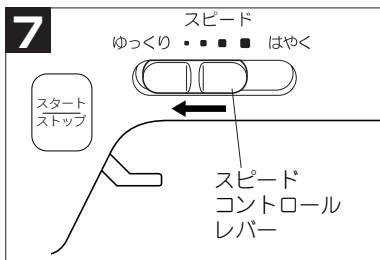
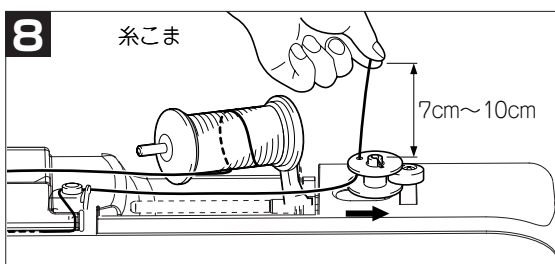
⚠ 注意

下糸巻きは、糸たて棒を必ず後側に倒した状態で行ってください。倒さずに使用すると糸がからまるおそれがあります。

3 糸こまを横にして、糸が下側から手前にくるように差し込みます。

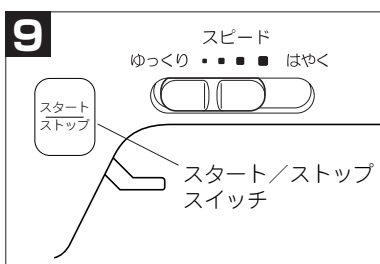
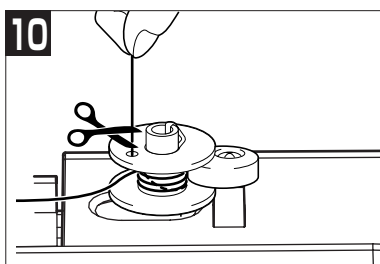
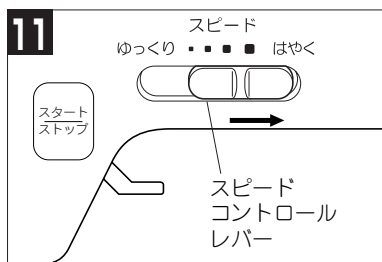
⚠ 注意

糸こまの向き、糸こま押えを正確にセットしないと糸たて棒に糸がからまるおそれがあります。
糸こま押え（大）（小）は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。
糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかるおそれがあります。

4 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち、下糸巻き案内表示（破線）に従い、❶～❺の順番に従いミゾにそって順序よく糸を通してください。

5 内側からボビンの穴に糸を通し、ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせて軸の根元まで押し込みます。

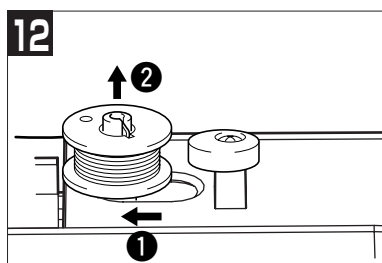
⚠ 注意

必ず表記の方法で行ってください。糸をボビンの穴に通さずに手で巻きつけてから下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

6 ボビンを右（➡方向）にカチッと音がするまで押します。

7 スピードコントロールレバーを「ゆっくり」（⬅方向）にスライドさせます。

8 糸を7cm～10cm引き出し、糸端を持ってスタート/ストップスイッチを押し、ボビンを10回転程度させます。

⚠ 注意

糸は、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたり、斜めに持っていたりすると糸がボビンに巻き込まれ、ケガの原因となります。

9 スタート/ストップスイッチを押して、下糸巻きを止めます。

10 糸端をハサミで切ります。

11 スピードコントロールレバーを「はやく」（➡方向）にスライドさせます。
再びスタート／ストップスイッチを押して、下糸巻きを行います。
ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート／ストップスイッチを1回押します。下糸巻きが止まります。

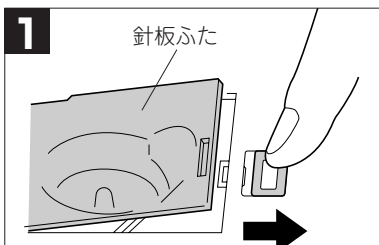
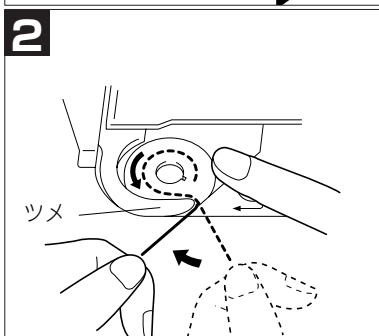
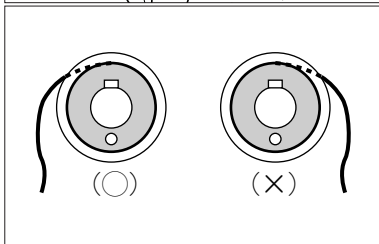
⚠ 注意

ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。そのまま続けると、故障の原因となります。

12 下糸巻き軸を左に戻し（❶）、ボビンを軸から外します（❷）。
スピードコントロールレバーを「ゆっくり」の方に戻してください。

※ 下糸を巻いたあとにミシンをスタートさせたり、プーリーを回すと、「ガチャ」という音がすることがありますが、故障ではありません。
※ 下糸巻き軸が右側に押された状態のときは、針は動きません（縫製できません）。

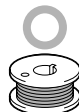
■ 下糸のセット

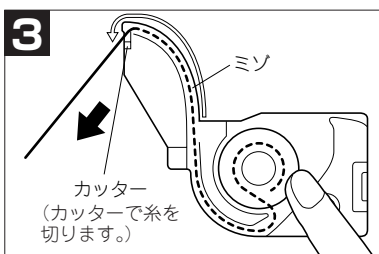
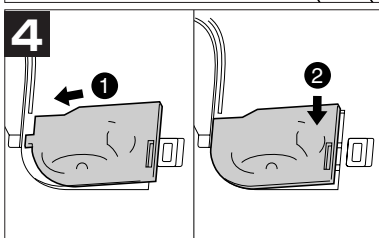
⚠ 注意

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

1 針板ふたの横のつまみを右（➡方向）に押して針板ふたを外します。

2 糸が左巻きになるように、右手でボビンをセットし、左手で巻き終わりの糸を図のようにしっかりツメに引っかけた後、ミゾにそって糸をかるく引っ張ります。

⚠ 注意

ボビンは必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。ボビンを逆の方向にセットすると針折れや糸調子不良の原因となります。

⚠ 注意

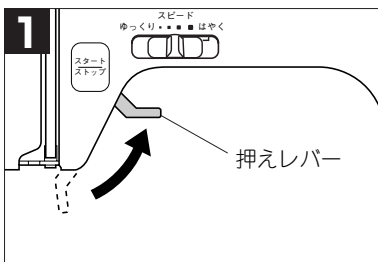
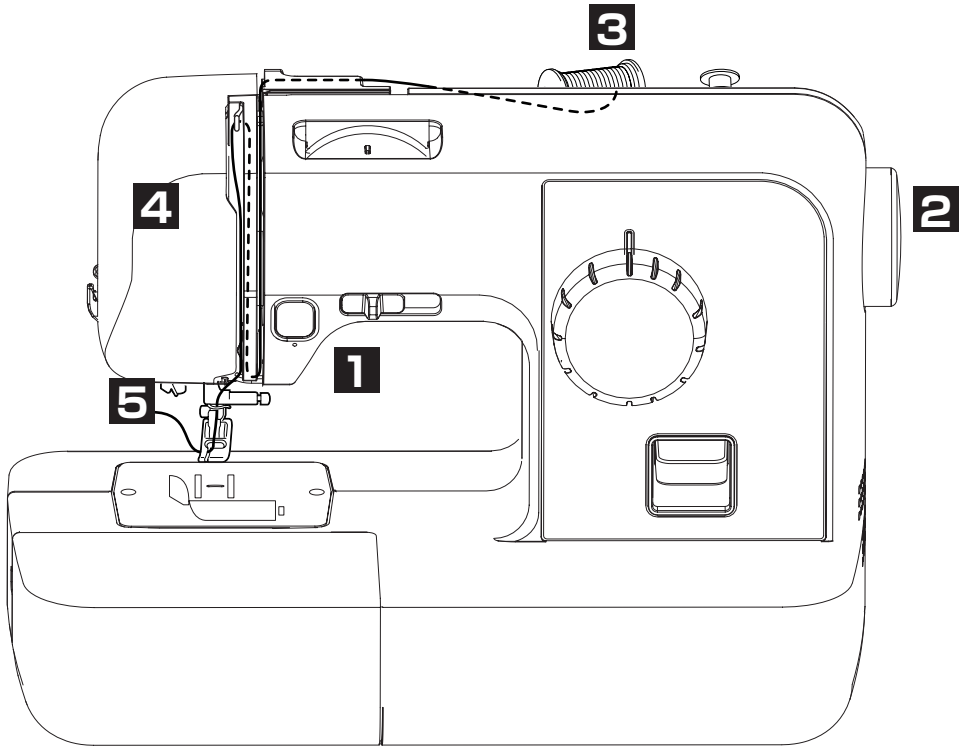
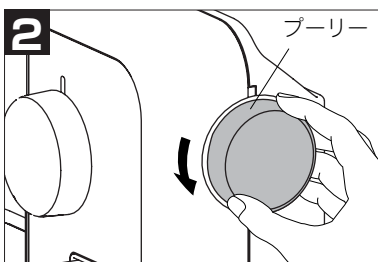
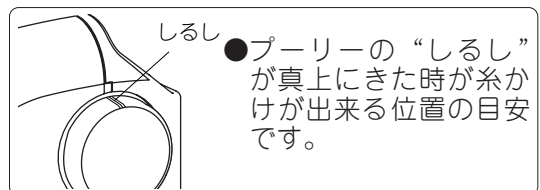
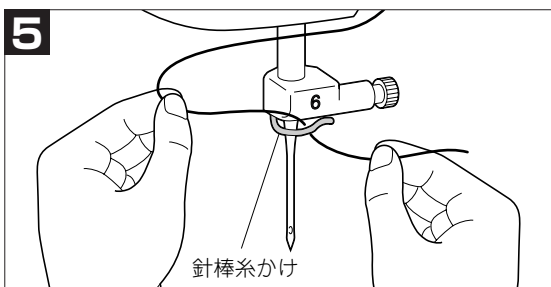
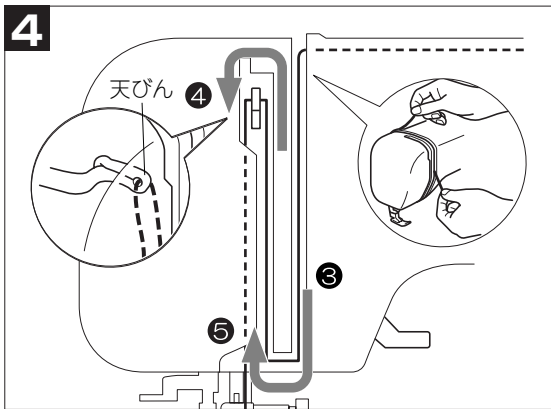
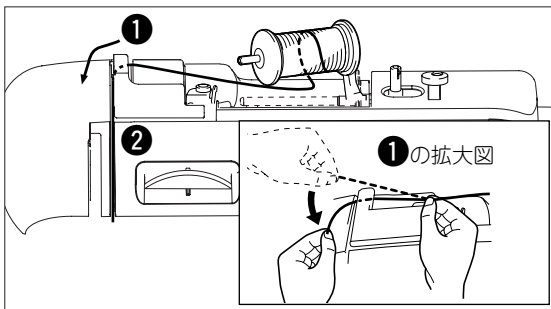
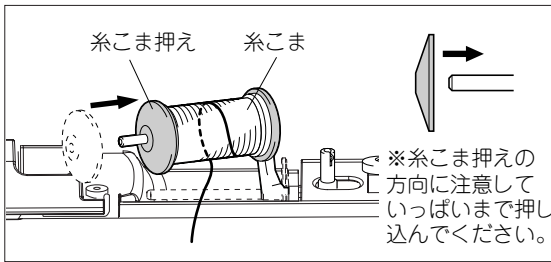
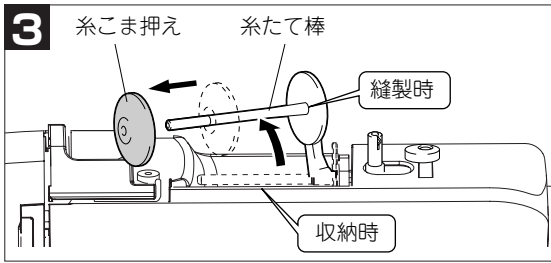
下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと針折れや糸調子不良の原因となります。

均一に巻かれている

糸が浮いている

3 図のように、右手でボビンを軽く押えながらミゾにそって糸を通し、手前に引きます。
カッターで糸を切ります。

4 針板ふたの左の突起部を本体に差し込みます。（❶）
右側を上からカチッと音がするまで押し、針板ふたを閉めます。（❷）
※ 下糸を引き上げなくてもそのままぬうことができます。

■ 上糸のかけ方

⚠ 注意

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

上糸通しは指示に従って正しく行ってください。糸が正しく通っていない場合、糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

1 押えレバーを上げます。

2 プーリーを手前に回して、針を上げます。

3 糸たて棒を後側に倒し、糸こま押えを外します。

⚠ 注意

ミシンをお使いになるときは、必ず糸たて棒を後側に出した縫製位置でご使用ください。出さずに縫製すると、糸がからまり、糸調子不良や針折れの原因となります。

糸こまを横にして、糸が下側から手前にくるように差し込みます。

⚠ 注意

糸こまの向きや糸こま押えを正確にセットしないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
糸こま押え（大）（小）は糸こまの大きさに合わせてご使用ください。
糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、針折れの原因となります。

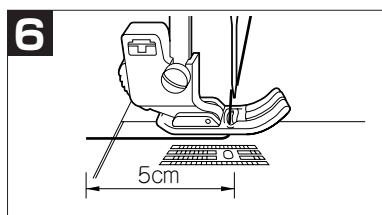
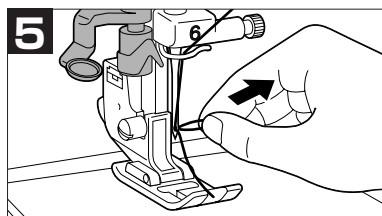
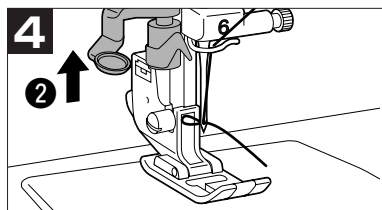
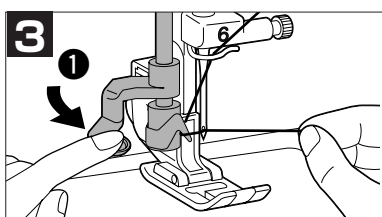
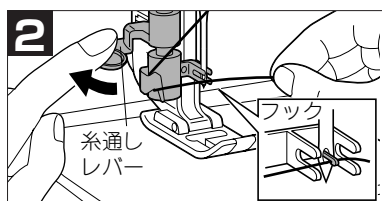
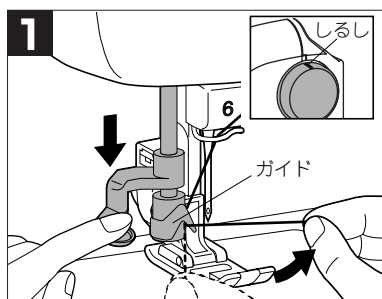
ミゾにそって、ミシン本体に表示されている番号順に糸を通してください。（❶、❷）

4 番号順に糸を通してください。（❸）
天びんに糸をかけます。天びんの右側から後ろに糸を回し、左手前に糸を運びます。（❹）
番号順に糸を通してください。（❺）

5 針棒糸かけに糸をかけます。
※図のように左手で糸を保持し、右手で糸かけをおこなうと糸かけがしやすくなります。

■ 糸通し装置の使い方

⚠ 注意

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

⚠ 注意

糸通し装置は家庭用ミシン針（HAX1）11～16番の範囲内でご使用ください。
針と糸の適正な組み合わせはP.2「布地と糸と針の選択早見表」を参照してください。

1 プーリーの“しるし”が真上にあることを確認します。
上糸をガイドにかけ、糸通しレバーをいちばん下まで下げます。

2 糸通しレバーを後ろへ回して針穴にフックを入れたあと、糸を下からすくうようにしてフックにかけます。
※糸を手前に引き、フックにかかっているか確認してください。

3 糸を軽く持ったまま、糸通しレバーを手前（❶）に戻した後、糸と糸通しレバーからゆっくりと手を離します。（❷）

4 糸が針穴に通ります。

5 ループ状になった糸を後ろ側へ引っ張り、針穴から糸を引き出します。

⚠ 注意

無理に引っ張って針を曲げないように注意してください。

6 糸の端を押えの間に通して後ろ側に5cmほど引き出します。

上糸のセットが完了しました。

ぬってみましょう

■ 基本操作

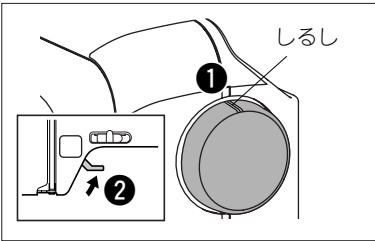
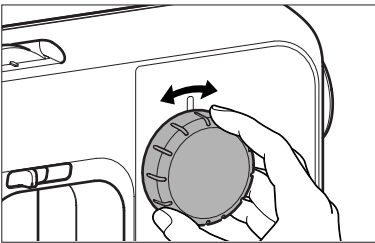
⚠ 注意

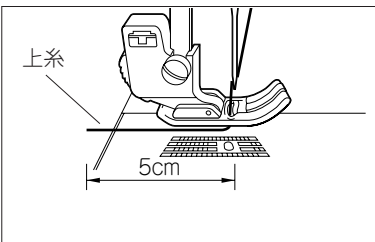
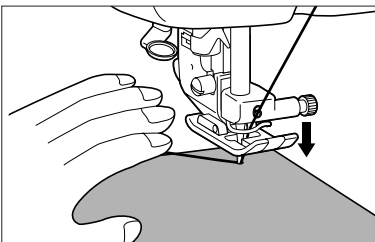
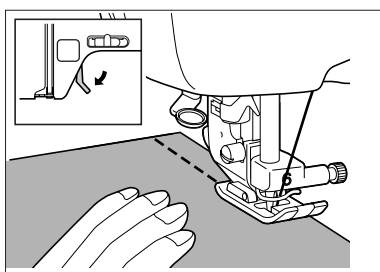
ミシンの操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針・プーリー・天びんなど動いている部品に手を近づけないでください。ケガの原因となります。

縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針折れの原因となります。

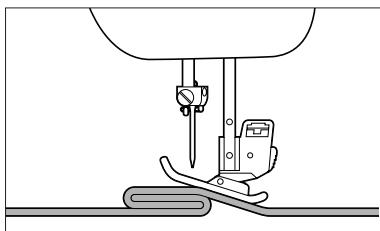
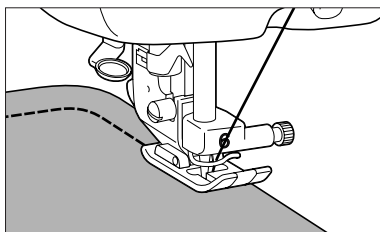
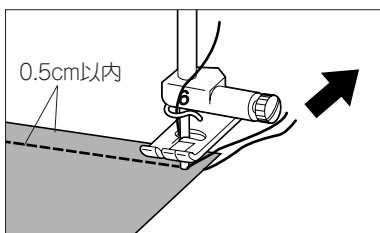
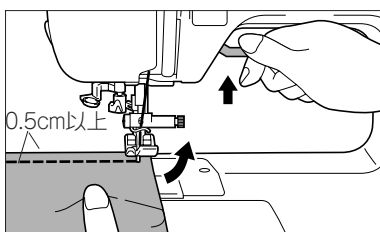
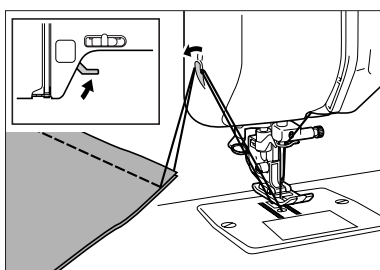
曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

ぬう際には、まち針などに針が当たらないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

1. プーリーの“しるし”が真上にあることを確認します。(❶)
   押えレバーを上げます。(❷)

2. 模様選択ダイヤルを回して、模様を選んでください。
3. 選んだ模様に合わせ、押えを付け替えてください。
   (P.21「押えの付け替え方」P.2「ぬい方早見表」参照)

模様	b	ac	d	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
押え記号	—	A	—	J	J	J	J	G	J	J	J	L	J

4. 上糸を押えの下に通して後へ5cmほど引き出しておいてください。

5. 布地を押えの下に入れ、糸と布地を左手で押え、右手でプーリーを回してぬい始めの位置に針をさしてください。

6. 押えレバーを下げてください。
7. スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。
※ぬっている途中でもスピードの調節はできます。

8. 電源スイッチを入れた後、手を布地にかるく添え、スタート/ストップスイッチを押し、ぬい始めます。
※スイッチを押しつづけると低速でぬいます。
9. もう一度スタート/ストップスイッチを押すとミシンは止まります。
※ぬい始め、ぬい終わりに返しぬいをする時は、P.8「返しぬいレバー」を参照してください。

10. 針が完全に止まったら、押えレバーを上げて布地を取り出してください。
11. 上下2本の糸を面板の糸切りにかけて、下に引っ張り糸を切ってください。

● ぬい方向を変える場合

● 布端から0.5cm以上内側をぬう場合

方向を変える位置でミシンを止め、プーリーを回して針を布地にさします。押えレバーを上げ、針を軸にして布地を回し、再び押えレバーを下げてぬい始めます。

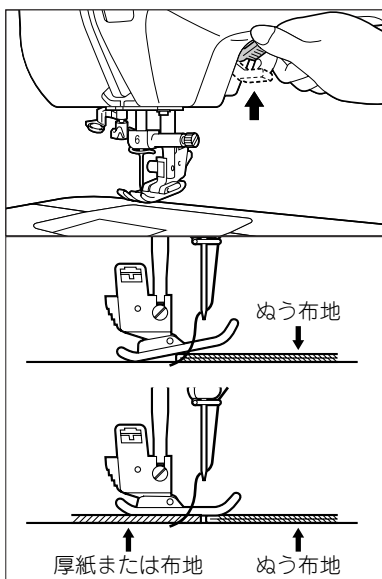
● 布端から0.5cm以内をぬう場合

角部にしつけをしておきます。方向を変える位置でミシンを止め、プーリーを回して針を布地にさします。押えレバーを上げ、針を軸にして布地を回します。方向をかえたらしつけ糸を後ろへ引っ張りながらぬいます。

● カーブをぬう場合

ぬい目を布端と平行になるようにミシンを止めて少しずつ布地の向きを変えながらぬいます。

● 段部をぬう場合

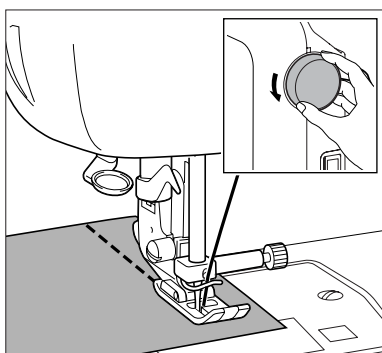
手で布送りを助けながら、布地を倒した方向にぬいます。

● 厚地をぬう場合

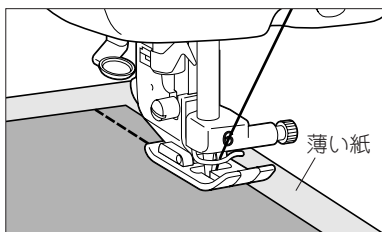
布地の厚さに合わせて、14～16番の針に交換してください。段をぬうときは、手で軽く補助して布送りを助けながら、布地を倒した方向にぬいます。

⚠ 注意

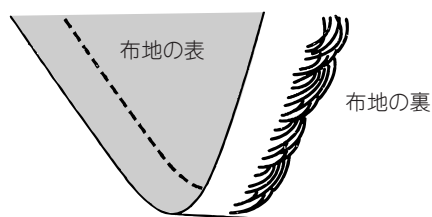
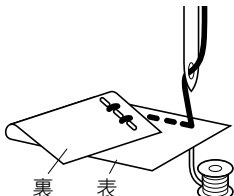
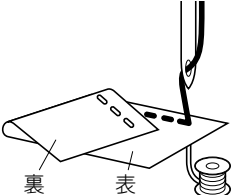
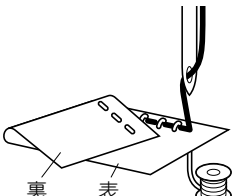
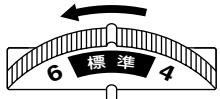
布の種類によってぬえる厚さが異なります。無理に布地を押し込んだりすると針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

押えレバーは2段階に上がります。布地の重ねぬいなど布地を入れにくいときは、押えレバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり、布地が入れやすくなります。

左図のように、押えが傾いて布地を送らないときは、押えの後ろに使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙をおいてぬうと、スムーズにぬうことができます。

● 特に厚い布をぬう場合

デニムなど、特に厚い布をぬうときは、プーリーを手で回しながらぬい進めます。

● 薄地をぬう場合

アイロンスプレーのりを使ってアイロンをかけたり、布地の下に薄い紙をしいたりしてぬうと、ぬいやすくなります。
紙はぬい終わった後でていねいに取り除いてください。

布地の裏側のぬい目がからまるときは…

図のように布地の表側は正常にぬえて、裏側の糸がからまるときは、P.15「上糸のかけ方」をごらんの上、正しくかけ直してください。
また上糸調子の調節のしかたはP.21「糸調子」をごらんください。

■糸調子

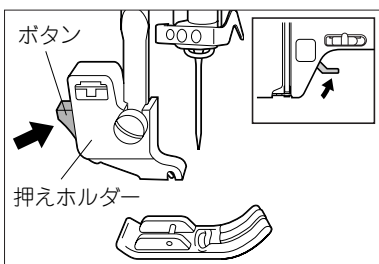
※ 上糸調子ダイヤルの **標準** は、普通地（中厚地）をぬう場合の目安です。布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、実際にお使いになる生地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

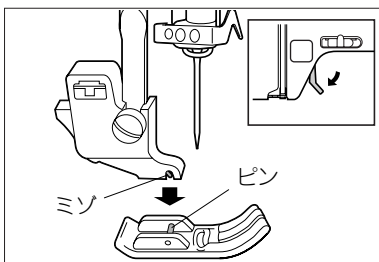
■ 押えの付け替え方

⚠ 注意

押えの交換は必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されると、ミシンが作動してケガの原因となります。

必ず本製品専用の押えをご使用ください。その他の押えを使用するとケガ・故障の原因となります。

模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

取り外し方

1. 電源スイッチを切り、プーリーを手前に回して針を手前に上げてください。
2. 押えレバーを上げてください。
3. 押えホルダーのボタンを押してください。

取り付け方

押えホルダーのミゾと押えのピンが合うように押えを置き、押えレバーを下げてください。

※押えは各模様に適した押えを使用してください。
（P.2「ぬい方早見表」参照）

■ ボタン穴かがり押えの使い方

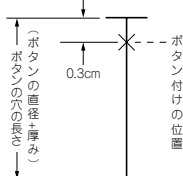
※ 実際にお使いになる生地の端切れで試しぬいをしてからぬってください。

⚠ 注意

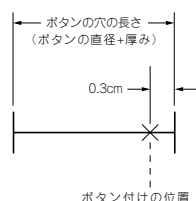
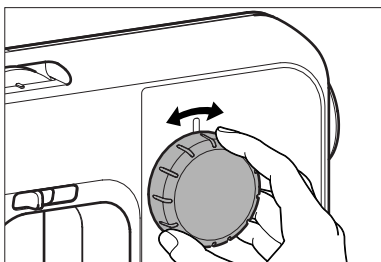
押えは前後の向きを確認して正しい向きで取り付けてください。
押えの向きを間違えますと針が押えに当たり、折れてケガをする原因となります。

■たてのボタン穴かがり

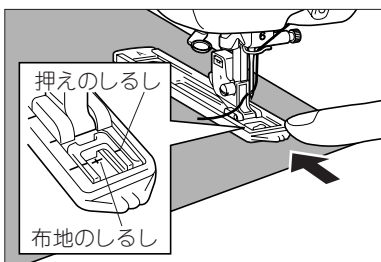
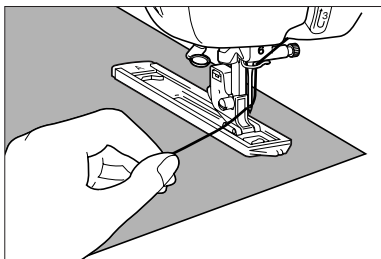
シャツなどの細い前立てや小さなボタンをたくさん並べてつける場合によく使われます。

※しるしはボタン付けの位置より0.3cm上側に付けてください。

■横のボタン穴かがり

丈夫なので、ほとんどの服に使われます。

※しるしはボタン付けの位置より0.3cm外側に付けてください。

※ しるしを付ける位置はかん止めやボタンの厚み、使用する糸の太さで異なります。0.3cmは目安です。

1. ボタン穴かがリをしたい位置にしるしをつけてください。
2. ボタン穴かがりは、a→b→c→dの順にぬいます。

ぬう順序	1	2	3	4
模様番号	ac	b	ac	d
ぬい目	a	b	c	d

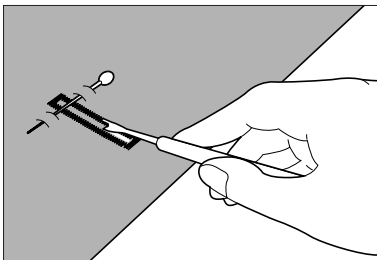
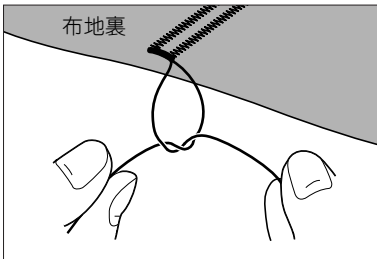
はじめに手前側のかん止め（a）をぬいます。模様選択ダイヤルで模様番号＜ac＞を選びます。

3. ボタン穴かがり押え＜A＞に付け替え、布地を入れます。押えを後ろいっぱいに押し、布地のしるしに押えのしるしを合わせて、押えレバーを下げてください。

4. 上糸をかるく持って、スタート/ストップスイッチを押してスタートしてください。
   ※ 布地に手をかるく添えてください。
5. 模様選択ダイヤルで模様番号＜ac＞を選びます。かん止め（a）5〜6針をぬいます。
6. 次に左側（b）をぬいます。模様選択ダイヤルで模様番号＜b＞を選び、しるしまでぬいます。

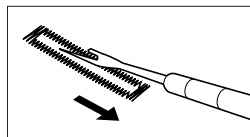
7. 次にかん止め（c）5〜6針をぬいます。模様選択ダイヤルで、もう一度模様番号<ac>を選んでぬいます。

8. 最後に右側（d）をぬいます。模様選択ダイヤルで模様番号<d>を選び、しるしまでぬいます。
   ※針が反対側に落ちて、ミシンがストップした場合や、針が布にささった状態でミシンがストップした場合は、手でプーリーを手前の方向に回して、針を上に上げてください。

⚠ 注意

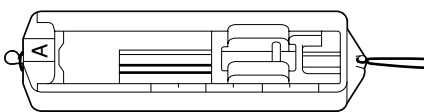
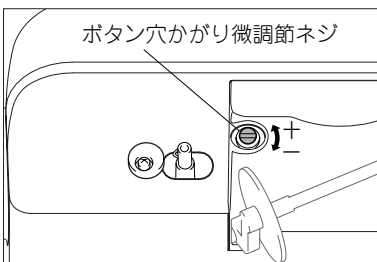
模様選択ダイヤルは、必ず針が布地から上がっていることを確認してから回してください。針が布地にささったまま、およびミシンが動いているときに回すと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

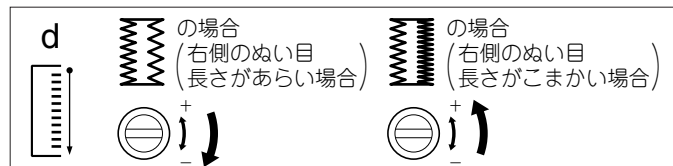
布地裏

9. 押えレバーを上げて布を引き出します。ぬい終わりの糸を10cmほど残して切ります。
10. ぬい終わりのぬい目のほつれを防ぐため、上糸の端を布地の裏に引き出し、下糸と結んでおいてください。
11. ぬい始めの糸を切ります。

12. かん止めの内側にまち針を打ち、ぬい目を切らないように、リッパーで切り開いてください。

リッパーの背で切りみぞにスジをつけてからリッパーで切り開くと切りやすくなります。

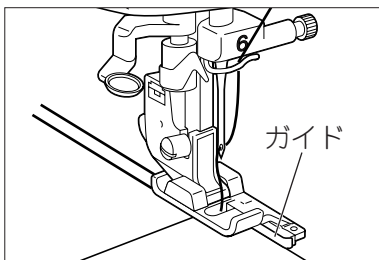
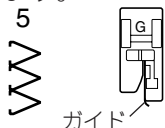
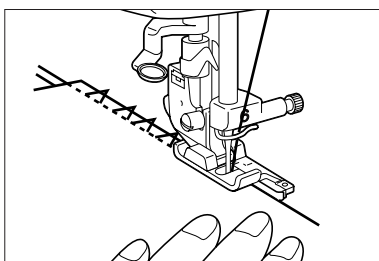
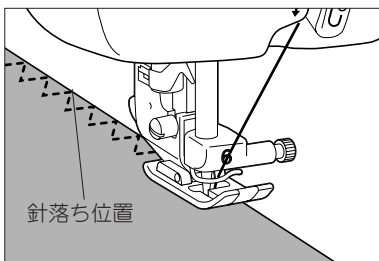
⚠ 注意

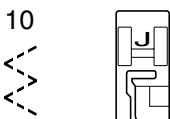
**リッパーで穴を開ける方向に手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。
本来の使用目的以外での使用はしないでください。**

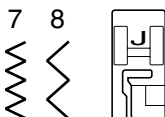
● のびる布地の場合

のびる布地にボタン穴かがりをするときは、ボタン穴かがりに芯ひもを入れてください。
芯ひもはゆるまない程度に、手前をかるく結んでください。
ぬい方は芯ひもなしの場合と同じです。

●ボタン穴かがり微調節ネジ

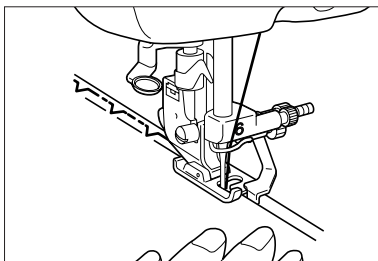
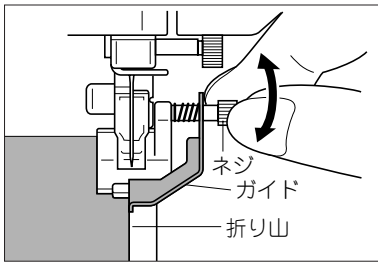
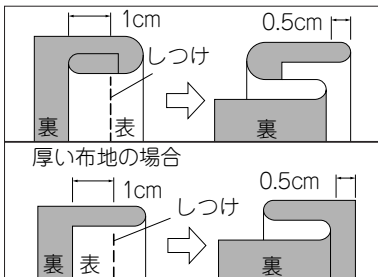
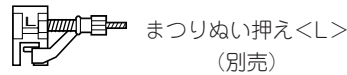
ボタン穴かがりの左右のぬい目長さは出荷時に調整してあります。使用される布と糸の組み合わせにより左右のぬい目長さが異なる場合がありますので、その時はボタン穴かがり微調節ネジを回して調節してください。
※ ぬい目右側のみの調節ネジです。
　左側のぬい目と比べて調節してください。

■ たちめかがり押えの使い方

⚠ 注意

<G>押えを使用するときは、必ず模様番号<5>を使用し、プーリーを手で回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用しますと、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

1. <G>押えに付け替え、模様選択ダイヤルで模様番号<5>を選びます。

2. 押えのガイドに布端が合うように布地をセットします。

3. 布端がガイドにあたるように、手を添えながらぬっていきます。
   ※ たちめかがりのぬい上がりは、素材により上糸と下糸の重なりがわずかに下（裏）に出る場合があります。

のびる布地の場合のたちめかがり

のびる布地の場合には、模様選択ダイヤルで模様番号<10>を選び、押えは<J>押えを使用します。
針を布端よりわずかに外側に落ちるようにぬってください。

ジグザグ模様の場合のたちめかがり

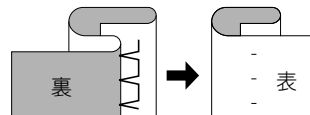
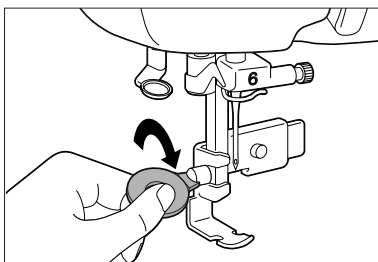
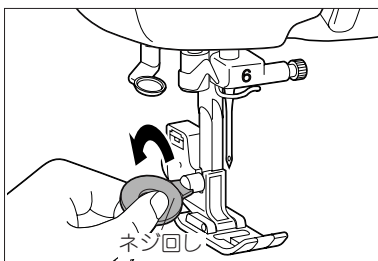
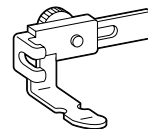
たちめかがりとして広範囲に使用できます。
模様選択ダイヤルで模様番号<7>または<8>を選び、押えは<J>押えを使用します。
針を布端よりわずかに外側に落ちるようにぬってください。

■ まつりぬい押え（別売）の使い方

※まつりぬい押え＜L＞は、モデル名: F018Nをご使用ください。

● ＜L＞押えに付け替え、模様選択ダイヤルで模様番号＜9＞を選びます。

1. 布地を左図のように折ってください。
   ※ しつけをしっかりしてください。

2. 左の針おちがわずかに折り山にかかるように、布地をセットしてください。
3. 折り山に押えのガイドを合わせてください。
   ※ ＜L＞押えのネジを回して、折り山に押えのガイドがピッタリとあたるように調節してください。

ネジ
ガイド
折り山

4. 折り山が押えのガイドにあたるように布地に手を添えながらぬっていきます

5. 表に返します。

■ 片押え（別売）の取り替え方

1. 電源スイッチを切り、プーリーを回して針を上げてください。

2. 押えホルダーのネジをゆるめて外してください。

3. 押えを取り替え、ネジをしっかりとしめつけてください。

⚠ 注意

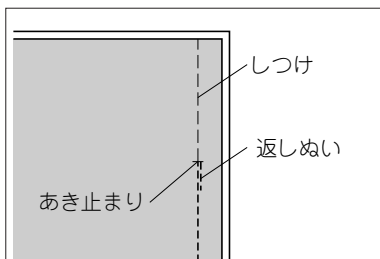
押えホルダーのネジは確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

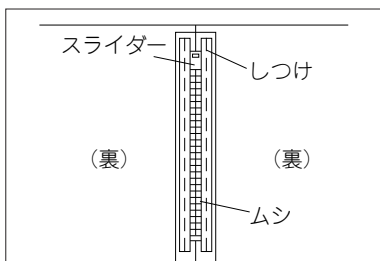
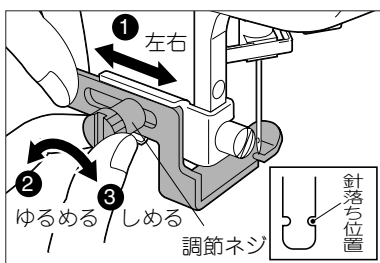
■ 片押え（別売）の使い方

※ 片押え<I>は、モデル名: F036Nをご使用ください。

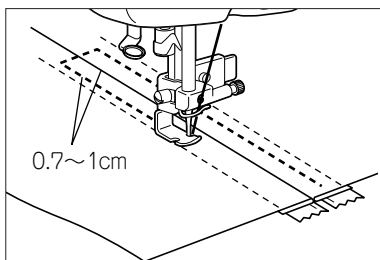
⚠ 注意

<I>押えを使用するときは、必ず直線（模様番号<3>）を使用し、プーリーを手でゆっくりと手前に回して針が押えに当らないことを確認してください。他の模様を使用しますと、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

⚠ **ファスナー付けの際には、ファスナーに針が当らないように注意してください。針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

ファスナー付け（つき合わせ）

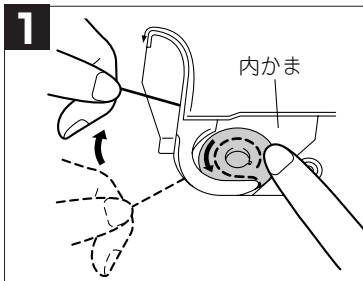
準備：<J>押えを取り付け、布地を中表にして（表面を合わせて）あき止まりまでは地ぬいをし、あきの部分（ファスナーを取り付けるところ）にはしつけをしてください。

1. ぬいしろを割り、ぬい目のラインにファスナーのムシの中心を合わせてしつけをしてください。

2. <I>押えに付け替え、模様選択ダイヤルで模様番号<3>を選びます。
押えの後ろの調節ネジで針落ち位置が、押えの右側（図参照）になるように押えの位置を左右に調節してください。
※ ファスナーの左側をぬうときは押えの右側に、ファスナーの右側をぬうときは押えの左側に、針落ち位置がくるように押えの位置を左右に調節します。

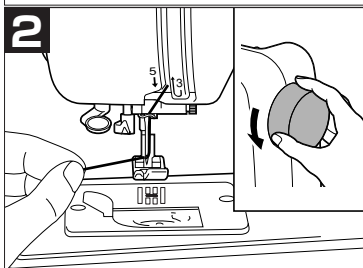
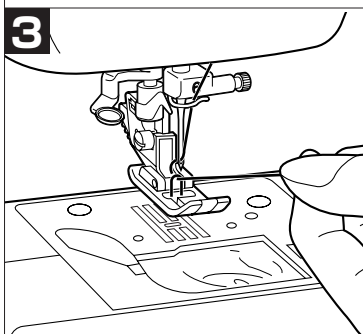
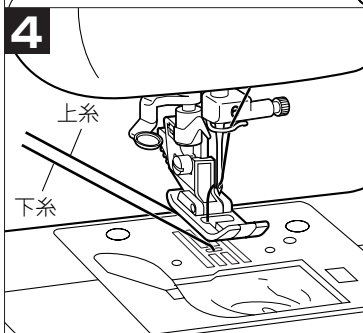
⚠ 注意

ネジは確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり、曲がったりするおそれがあります。

3. 表面を上にしてぬいます。
ぬい終わったら、しつけを取ってください。

■ 下糸の引き出し方

⚠ 注意

必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

ギャザーやダーツなど、あらかじめ下糸を余分に引き出しておきたいときは、手動で下糸を引き出します。

1 糸を矢印のようにミゾにそって通します。糸は切らないでください。
※針板ふたは、はずしたままにしておきます。

2 左手で上糸を軽く持ち、プーリーを手前にゆっくりと1回転させ、針を上げてください。

3 上糸を引き上げると、下糸が針板の穴から輪になって出てきます。

4 下糸を5cmほど引き出し、上糸とそろえて押えの下に通します。

5 針板ふたを閉めます。

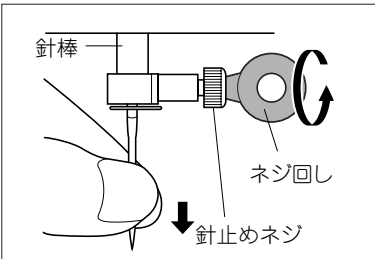
ミシンを大切に

■ 針の交換

⚠ 注意

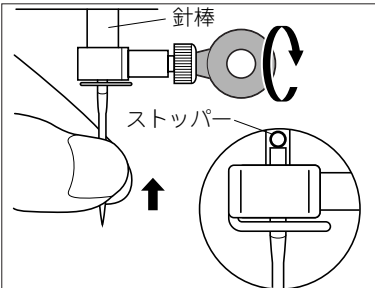
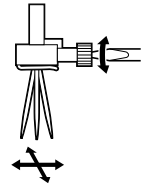
針の交換は必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート／ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してケガの原因となります。

曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。

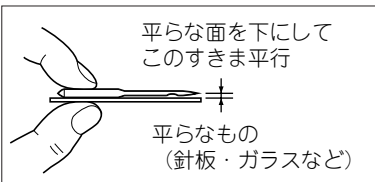
針は必ず家庭用ミシン針（HA×1）をご使用ください。その他の針を使用しますと針折れや故障の原因となります。

1. 電源スイッチを切り、針を上げ、押えレバーを下げてください。

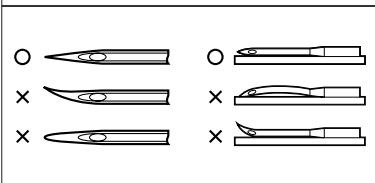
2. 針止めネジを手前に回してゆるめて、針を抜いてください。

⚠ 注意

針止めネジをゆるめたり，しめたりするときは、針棒に前後・左右に大きな力を加えないでください。故障の原因となります。

3. 新しい針の平らな面を後ろ側に向けてストッパーに当たるまで差し込み、針止めネジをしっかりとしめてください。

⚠ 注意

針は必ずストッパーに当るまで差し込み、止めネジをコインまたはネジ回しで確実にしめてください。針が十分に差し込まれていなかったり、ネジのしめ方がゆるいと針折れや故障の原因となります。

正しい針の見分け方

平らな物（針板、ガラス板など）に針の平らな面を合わせ、すきまが平行である針をご使用ください。
針先が曲がったり、つぶれているものは使用しないでください。
針は家庭用ミシン針（HA×1）をご使用ください。

■ お手入れ
● 本体表面の汚れの掃除

⚠ 注意

電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
ケガ・感電の原因となります。

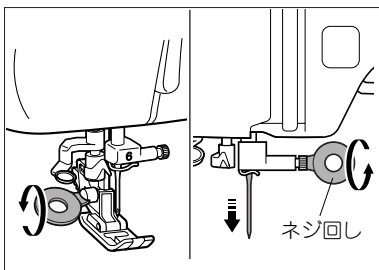
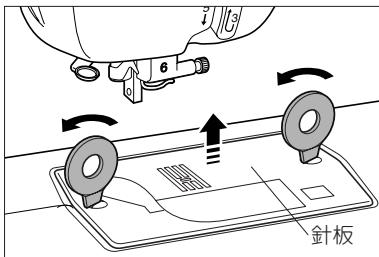
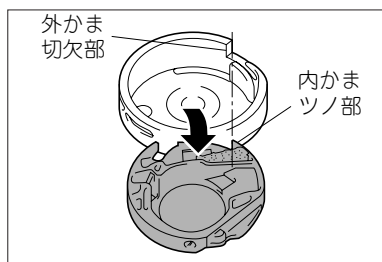
本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布地に浸し、固くしぼってふきとってください。
汚れを取った後は、乾いた布でふきとってください。

⚠ 注意

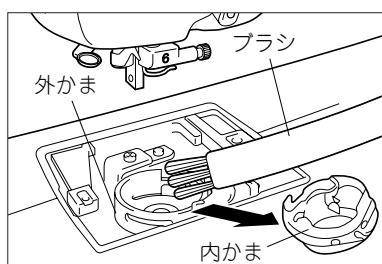
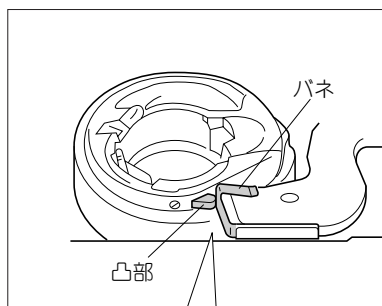
ベンジン、シンナー、みがき粉は使用しないでください。
変色や変形の原因となります。

● かまの掃除
ほこりがたまると縫製不良になる場合があります。
いつもきれいにしておきましょう。

⚠ 注意

電源スイッチが「切」になっていることを確認してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
ケガ・感電の原因となります。

1. 電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、ネジをゆるめて押えホルダーと針を外してください。

2. ネジをゆるめて針板を外してください。

3. プーリーを手前に回し、外かま切欠部と内かまツノ部の位置を合わせて内かまを取り外してください。

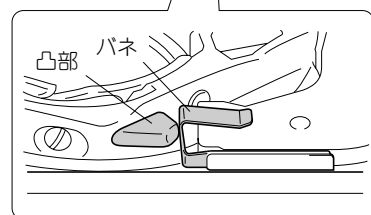
⚠ 注意

プーリーは必ず手前に回してください。反対の方向に回すと、故障の原因となります。

4. 付属のブラシや掃除機で外かまとその周辺の糸くずを取り除いてください。
※内かまには油をささないでください。

5. 内かまを外したときと同じ位置に外かま切欠部がきていることを確認し、内かまの凸部とバネを合わせて内かまを取り付けてください。

⚠ 注意

傷がついた内かまは使用しないでください。
万一、使用しますと上糸がからみ、製縫不良や針折れの原因となります。

内かまは必ず正しい位置に取り付けてください。
針折れの原因となります。

※内かまは最寄りのブラザー販売店でお求めください。

6. 針板を手前側からはめて、ネジをしっかりしめてください。

7. 押えホルダーを付け直す場合は、押え＜J＞を先に押えホルダーにセットし、押えレバーを下げた状態で押えホルダーのネジを確実にしめます。

⚠ 注意

ネジは確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が針板や押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

8. ネジをしめたら、針を取り付けてください。
（P.28「針の交換」参照）

■ 困ったときは

ミシンの調子が悪いときは、修理を依頼される前に、該当する症状を下記より選び、指示に従い点検・処置を行ってください。それでも直らない場合は、お買い上げの販売店、最寄りのブラザー販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」0120-340-233にお申し付けください。

⚠ 注意

運転中に停電が発生した場合
- **電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。**
- **再運転される場合は、運転の手順にもとづき正しく行ってください。**

糸通しで糸が針穴に通らない

●プーリーの“しるし”が真上にありますか？ ⇒15ページ参照
●針がストッパーに当たるまで差してありますか？ ⇒28ページ参照
●指定範囲内の針を使用していますか？ ⇒17、2ページ参照
●糸通し装置への糸かけは正しくできていますか？ ⇒17ページ参照
●糸通し装置への操作は正しくできていますか？ ⇒17ページ参照

上糸がつる

●下糸を正しくセットしていますか？ ⇒14ページで確認

糸調子が合わない

●糸を正しくかけていますか？ ⇒15～17ページで確認
●下糸を正しくセットしていますか？ ⇒14ページで確認
●布、糸、針の組み合わせは適当ですか？ ⇒2ページで確認
●糸たて棒を後側に倒していますか？ ⇒16ページで確認
●上糸調子ダイヤルを強くしすぎていませんか？ ⇒21ページ参照
●特殊な布、糸などを使っていませんか？ ⇒21ページ参照

布裏で糸がからまる

●上糸を正しくセットしていますか？ ⇒15～16ページで確認

下糸がボビンにきれいに巻けない

●下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていますか？ ⇒11ページで確認
●糸たて棒を後側に倒していますか？ ⇒10ページで確認
●糸こまは正しくセットされていますか？ ⇒11ページで確認

ミシンが動かない

●フットコントローラー（別売）を接続したまま、スタート／ストップスイッチを押していませんか？
⇒スタート／ストップスイッチを使ってぬう場合は、フットコントローラーを外してください。（8ページ参照）
●下糸巻軸が右のままで、スタート／ストップスイッチまたは返しぬいレバーを押していませんか？
⇒下糸巻軸を左へ戻してからぬい始めてください。（13ページ参照）
●電源プラグはしっかり差し込まれていますか？
●スタート／ストップスイッチは押しましたか？

ぬい目がとぶ

●針は正しく付いていますか？ ⇒28ページで確認
●正しい針を使っていますか？⇒針を確認し、正しくない場合は交換してください。（28ページ参照）
●布、糸、針の組み合わせは適当ですか？ ⇒2ページで確認
●針板の下にゴミがたまっていませんか？⇒送り歯・かまの掃除をしてください。（29～30ページ参照）
●糸を正しくかけていますか？ ⇒15～17ページで確認

布地を送らない

●選択した模様と押えの組み合わせは適当ですか？ ⇒2ページで確認
●正しい針を使っていますか？⇒針を確認し、正しくない場合は交換してください。（28ページ参照）
●糸がからまっていませんか？
⇒上糸・下糸がからまっていないか確認してください。
⇒針板・かまを掃除してください。（29〜30ページ参照）

上糸が切れる

●上糸を正しくかけていますか？ ⇒15〜17ページ参照
●糸がからまっていませんか？
⇒上糸・下糸がからまっていないか確認してください。
⇒針板・かまを掃除してください。（29〜30ページ参照）
●糸たて棒を後側に倒していますか？ ⇒16ページで確認
●糸こまは正しくセットされていますか？ ⇒16ページで確認
●正しい針を使っていますか？
⇒針を確認し、正しくない場合は交換してください。（28ページ参照）
●かまにキズができていませんか？
⇒針板・かまをはずし、キズがないか確認してください。（29〜30ページ参照）
⇒キズがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

下糸が切れる

●糸がからまっていませんか？
⇒上糸・下糸がからまっていないか確認してください。
⇒針板・かまを掃除してください。 （29〜30ページ参照）
●下糸は正しくセットされていますか？ ⇒14ページで確認

布地にしわがよる

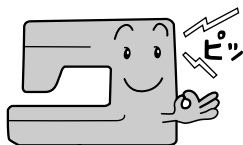
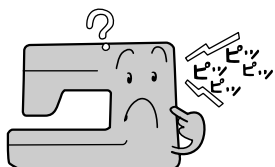
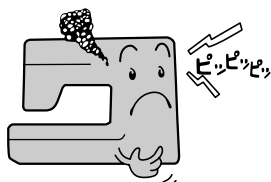
●糸を正しくかけていますか？ ⇒15〜17ページで確認
●正しい針を使っていますか？⇒針を確認し、正しくない場合は交換してください。（28ページ参照）
●布、糸、針の組み合わせは適当ですか？ ⇒2ページで確認
●上糸調子ダイヤルを強くしすぎていませんか？ ⇒21ページ参照

針が折れる

●針は正しく付いていますか？ ⇒28ページで確認
●正しい針を使っていますか？⇒針を確認し、正しくない場合は交換してください。（28ページ参照）
●布、糸、針の組み合わせは適当ですか？ ⇒2ページで確認
●糸たて棒を後側に倒していますか？ ⇒16ページで確認
●布地を引っ張りすぎていませんか？⇒手はかるく添えてください。（18ページ参照）

回転が遅い、音が高い

●針板の下にゴミがたまっていませんか？
⇒送り歯・かまの掃除をしてください。（29〜30ページ参照）

■ 電子音について

● **正しい操作をしたとき➡1回“ピッ”**

● **まちがった操作をしたとき➡4回“ピッピッピッピッ”**

● **モーターがロックしたとき➡3秒間“ピッピッピッ…”**

・ミシンは自動的に止まります。
・停止後7秒経過すると、運転可能状態にもどります。
・ロックした原因を直さないでスタート／ストップスイッチを押さないでください。
・糸がらみなどでロックした原因を直すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

アフターサービス

- ご購入の際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 修理については、お買い上げの販売店または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」へお問い合わせください。

お客様相談室（ミシン119番）0120-340-233

本製品についての、使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）

ＴＥＬ：0120-340-233
ＦＡＸ：052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日　9：00～17：30
休業日　：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ

- ブラザーのホームページでは、家庭用ミシンに関する様々な情報を掲載しております。
  http://www.brother.co.jp/
- ブラザーソリューションセンターでは、家庭用ミシンに関するサポート情報を掲載しております。
  http://solutions.brother.co.jp/sewing_support/index.html

brother
ブラザー工業株式会社
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

112-U53
Printed in China

XE1022-301⑤